

令和元年度第2回蒲郡市総合教育会議 会議録

開催日時	令和2年1月27日(月) 午前11時から12時まで
開催場所	蒲郡市役所5階 庁議室
出席者	<p>蒲郡市長 鈴木 寿明</p> <p>蒲郡市教育委員会 教育長 大原 義文 委育長職務代理者 高田 稔 委員 石渡 篤史 委員 渡辺 充江 委員 水藤 頼利</p> <p>【オブザーバー】</p> <p>企画部 部長 飯島 伸幸 総務部 部長 平野 敦義 教育委員会教育監 岡田 敏宏 教育委員会事務長兼庶務課長 嶋田 丈裕</p> <p>【事務局】</p> <p>企画部次長兼企画政策課長 牧原 英治 企画部企画政策課 主事 青木 佑紀</p>
情報交換	1 蒲郡市小中学校規模適正化方針(仮称)の策定について
会議資料	蒲小中学校規模関連資料
内容(要旨)	<p>情報交換 蒲郡市小中学校規模適正化方針(仮称)の策定について</p> <p>【説明者：教育委員会事務長兼庶務課長】</p> <p>蒲郡市小中学校規模適正化方針(仮称)の策定にむけて、小中学校の児童・生徒数、今後の児童・生徒数の見込み、関連する法令や文部科学省の手引きの内容などについて情報共有し、令和2年度からの策定方法について説明した。</p> <p>【教育委員の主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童、生徒数は一番多いときと比べどの程度減っているのか。 ⇒昭和55年では、小中学生が13,457人であったのに対し、令和元年では6,157人と、45.75%まで減少している。(教育委員会)</li> <li>・蒲郡西部小は女子のみ4人の学年がある。子供たちは優秀だと思うが、男の子がいないことも踏まえ「学級」として成立するのか。</li> <li>・少人数は下級生と上級生と一緒に活動できるなどよい面もあるが、「生きる力」を身に着けるため必要な、お互いを認め合うことや切磋琢磨を経験する点で難しい面もある。ICT機器等の利用で、別の学校と合同授業を行うなど、対策の一助にならないか。</li> <li>・どこまでの方針を決めていくものなのか。 ⇒蒲郡市での標準の学校規模を決め、小規模と判断される学校についての対応策の方針を決定していく。(教育委員会)</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"><li>・公共施設マネジメントのワークショップとの関係はどうなるのか。 ⇒ワークショップは一時中断し、策定された方針を加味し進める予定である。すでに終わった地区のワークショップをすべてやり直す判断はしていない。(市)</li><li>・祭りなど地域の文化もある。まずは地域の声を聞いて進めてほしい。</li><li>・学校は地域コミュニティの核である。学校の統廃合について子どもの数だけで判断してはいけない。</li><li>・人口増による解決もある。</li><li>・教育委員会としては、学校の統廃合の議論を先行するのではなく、子ども達の教育のためにどんな規模が最適かを基盤に考える必要がある。</li><li>・特別支援学級や外国人児童対応のための教職員の配置についても関わる方針であるため、考慮して検討するべき。</li></ul> <p><b>【市部局の主な意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学校の適正規模や配置について踏み込む際には、通学距離や人口の分布など、様々な条件を見て検討していく必要がある。</li><li>・最後には思い切った判断が必要になると思うが、議論を多く交わしていく必要がある。</li></ul>
--	---